













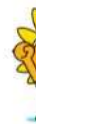








■使用評価マニュアル: 北九州市建築物総合環境性能評価制度マニュアル

■使用評価ソフト: CASBEE北九州\_2014(v2.0)

## 1 建物概要

建物名称	(株)富士精工 新社屋 新築工事	BEE	1.2	BEEランク	B+	★★★
------	------------------	-----	-----	--------	----	-----

## 2 重点項目への取り組み度

重点項目	得点※/満点	取り組み度	評価
1 循環型社会への貢献	3.3 /5	   	ふつう 
2 地球温暖化対策の推進	3.9 /5	   	ふつう 
3 豊かな自然環境の確保	2.3 /5	  	がんばろう 
4 高齢社会への対応	3.0 /5	  	ふつう 
※ 対応するCASBEEのスコア(平均)を5点満点で表示します。(スコア1.0=1点、スコア5.0=5点)		評価 凡例	
		よい 4 点以上	
		ふつう 3 点以上	
		がんばろう 3 点未満	

## 3 設計上の配慮事項とCASBEEのスコア

使用CASBEE評価マニュアル: CASBEE-建築(新築) 2016年版		使用CASBEE評価ソフト: CASBEE-BD_NC_2016(v.3.0)	
1 循環型社会への貢献		スコア平均 3.4	
リサイクルに関する配慮 LR2/ 2 非再生性資源の使用量削減		スコア 3.3	長寿命化に関する配慮 Q2/ 2.2 部品・部材の耐用年数
			スコア 3.2
			Q2/ 3 対応性・更新性
			スコア 3.6
特になし		設備機械類の更新を考慮して屋外配置とした	
2 地球温暖化対策の推進		スコア平均 3.9	
省エネ・省資源に関する配慮 LR3/ 1 地球温暖化への配慮		スコア 3.8	節水に関する配慮 LR2/ 1.1 節水
			スコア 4
燃焼機器を使用しない		節水器具を採用した	
3 豊かな自然環境の確保		スコア平均 2.3	
生態系保全に関する配慮 Q3/ 1 生物環境の保全と創出		スコア 1	緑化に関する配慮 Q3/ 3.2 敷地内温熱環境の向上
			スコア 3
			LR3/ 2.2 温熱環境悪化の改善
			スコア 3
適切な緑地計画		燃焼設備の計画なし	
4 高齢社会への対応		スコア平均 3.0	主な指標
バリアフリーに関する配慮 Q2/ 1.1.3 バリアフリー計画		スコア 3	建物の外皮性能 (BPI評価) 非住宅:BPI値、住宅:省エネ等級 0.62
最低限度の配慮をした			建物の一次エネルギー消費量 (BEI評価) 非住宅:BEI値、住宅: — 0.71
			外構緑化指数 0 %
			建物緑化指数 0 %

: 入力欄

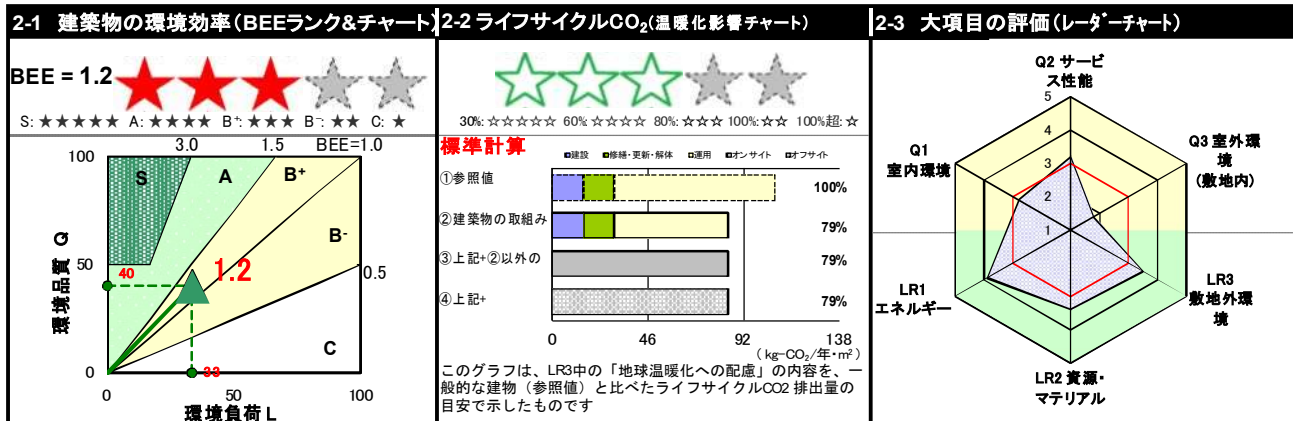
: CASBEE—建築(新築)の採点結果から転記してください。

# CASBEE<sup>®</sup>-建築(新築)

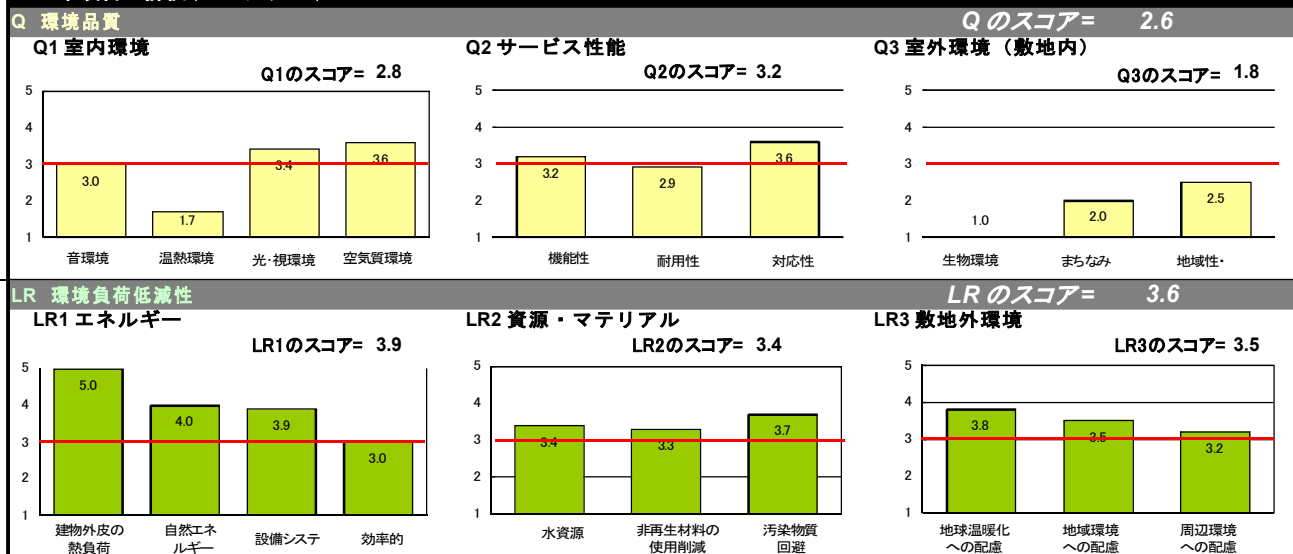
## 評価結果

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版 I使用評価ソフト: CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(株)富士精工 新社屋 新築工事	階数	地上2階
建設地	福岡県北九州市八幡西区屋敷1丁目4	構造	S造
用途地域	工業専用地域	平均居住人員	58 人
地域区分	6地域	年間使用時間	2,570 時間/年(想定値)
建物用途	事務所,工場,	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年3月 予定	評価の実施日	2020年5月21日
敷地面積	4,580 m <sup>2</sup>	作成者	松尾組
建築面積	1,585 m <sup>2</sup>	確認日	2020年5月21日
延床面積	2,295 m <sup>2</sup>	確認者	松尾組



### 2-4 中項目の評価(バーチャート)



### 3 設計上の配慮事項

総合		その他
<ul style="list-style-type: none"> <li>既存敷地形状を利用した、形状配置計画</li> <li>(前面道路の閉塞感を無くすセットバック配置、敷地高低差を有効利用するレベル計画)</li> </ul>		特になし
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境 (敷地内)
<ul style="list-style-type: none"> <li>F☆☆☆☆建材を使用</li> <li>原則室内は禁煙とし施設内の空気質環境に配慮</li> <li>全作業室及び材料用倉庫内のQ2.1.1室温制御、空調方式により、快適な環境となる設計</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>将来を考慮(機械増設)した余裕の有る平面計画</li> <li>設備基本機械類(受水槽、消火水槽、キュービクル)は将来を考慮して、すべて屋外配置</li> <li>施設は設備を含めてメンテナンスを考慮した計画</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>敷地内は、可能な限り緑地を設け暑熱環境に配慮</li> </ul>
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
<ul style="list-style-type: none"> <li>外壁に断熱パネルを採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>節水器具の採用</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>必要な数の駐車スペースの計画</li> <li>大型車の通行利用を考慮した、敷地角部のセットバック</li> </ul>

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)

■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)

■「ライフサイクルCO<sub>2</sub>」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと

■評価対象のライフサイクルCO<sub>2</sub>排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される

■LCCO<sub>2</sub>の算定条件等については、「LCCO<sub>2</sub>算定条件シート」を参照されたい

**CASBEE-建築(新築)2016年版**  
**(株)富士精工 新社屋 新築工事**

■使用評価マニュアル: CASBEE-建築(新築)2016年版

欄に数値またはコメントを記入

■評価ソフト:

CASBEE-BD\_NC\_2016(v3.0)

スコアシート		実施設計段階								
配慮項目				環境配慮設計の概要記入欄		評価点	重み係数	評価点	重み係数	全体
Q 建築物の環境品質										2.6
Q1 室内環境							0.33		-	2.8
1 音環境						3.0	0.15	-	-	3.0
1.1 室内騒音レベル						3.0	0.40	-	-	
1.2 遮音						4.2	0.40	-	-	
1		開口部遮音性能		T-2	5.0	0.60	-	-		
2		界壁遮音性能			3.0	0.40	-	-		
3		界床遮音性能(軽量衝撃源)			-	-	-	-		
4		界床遮音性能(重量衝撃源)			-	-	-	-		
1.3 吸音						1.0	0.20	-	-	
2 温熱環境						1.7	0.35	-	-	1.7
2.1 室温制御						2.5	0.50	-	-	
1		室温			3.0	0.38	-	-		
2		外皮性能			1.0	0.25	-	-		
3		ゾーン別制御性			3.0	0.38	-	-		
2.2 湿度制御						1.0	0.20	-	-	
2.3 空調方式						1.0	0.30	-	-	
3 光・視環境						3.4	0.25	-	-	3.4
3.1 屋光利用						4.6	0.30	-	-	
1		屋光率		屋光率:4.92%(事務室)	5.0	0.60	-	-		
2		方位別開口			-	-	-	-		
3		屋光利用設備		トップライト	4.0	0.40	-	-		
3.2 グレア対策						3.0	0.30	-	-	
1		屋光制御			3.0	1.00	-	-		
3.3 照度						3.0	0.15	-	-	
3.4 照明制御						3.0	0.25	-	-	
4 空気質環境						3.6	0.25	-	-	3.6
4.1 発生源対策						4.0	0.50	-	-	
1		化学汚染物質		F☆☆☆☆建材の使用	4.0	1.00	-	-		
4.2 換気						3.3	0.30	-	-	
1		換気量			3.0	0.33	-	-		
2		自然換気性能		0.051>0.033	4.0	0.33	-	-		
3		取り入れ外気への配慮			3.0	0.33	-	-		
4.3 運用管理						3.0	0.20	-	-	
1		CO <sub>2</sub> の監視			3.0	0.50	-	-		
2		喫煙の制御			3.0	0.50	-	-		
Q2 サービス性能						-	0.30	-	-	3.2
1 機能性						3.2	0.40	-	-	3.2
1.1 機能性・使いやすさ						2.3	0.40	-	-	
1		広さ・収納性			3.0	0.33	-	-		
2		高度情報通信設備対応			1.0	0.33	-	-		
3		バリアフリー計画			3.0	0.33	-	-		
1.2 心理性・快適性						3.6	0.30	-	-	
1		広さ感・景観		天井高さ:2.9m以上 外部に面して窓設置	5.0	0.33	-	-		
2		リフレッシュスペース		リフレッシュスペース+自販機	5.0	0.33	-	-		
3		内装計画			1.0	0.33	-	-		
1.3 維持管理						4.0	0.30	-	-	
1		維持管理に配慮した設計		②③④⑤⑥⑩	4.0	0.50	-	-		
2		維持管理用機能の確保		①②⑤③④⑥⑪	4.0	0.50	-	-		
2 耐用性・信頼性						2.9	0.30	-	-	2.9
2.1 耐震・免震・制震・制振						3.0	0.50	-	-	
1		耐震性(建物のこわれにくさ)			3.0	0.80	-	-		
2		免震・制震・制振性能			3.0	0.20	-	-		
2.2 部品・部材の耐用年数						3.2	0.30	-	-	
1		躯体材料の耐用年数			3.0	0.20	-	-		
2		外壁仕上げ材の補修必要間隔			2.0	0.20	-	-		
3		主要内装仕上げ材の更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
4		空調換気ダクトの更新必要間隔			3.0	0.10	-	-		
5		空調・給排水配管の更新必要間隔		B以上を使用しEは不使用	5.0	0.20	-	-		
6		主要設備機器の更新必要間隔			3.0	0.20	-	-		
2.4 信頼性						2.6	0.20	-	-	
1		空調・換気設備			3.0	0.20	-	-		
2		給排水・衛生設備			2.0	0.20	-	-		
3		電気設備			3.0	0.20	-	-		
4		機械・配管支持方法			3.0	0.20	-	-		
5		通信・情報設備			2.0	0.20	-	-		

<b>3 対応性・更新性</b>			<b>3.6</b>	0.30	-	-	<b>3.6</b>
<b>3.1 空間のゆとり</b>			<b>4.6</b>	0.30	-	-	
1	階高のゆとり	階高:3.9m以上	5.0	0.60	-	-	
2	空間の形状・自由さ	【事務所】0.18、【工場】0.14	4.0	0.40	-	-	
<b>3.2 荷重のゆとり</b>			<b>3.0</b>	0.30	-	-	
<b>3.3 設備の更新性</b>			<b>3.4</b>	0.40	-	-	
1	空調配管の更新性		3.0	0.20	-	-	
2	給排水管の更新性		3.0	0.20	-	-	
3	電気配線の更新性	LGS下地	5.0	0.10	-	-	
4	通信配線の更新性	LGS下地	5.0	0.10	-	-	
5	設備機器の更新性		3.0	0.20	-	-	
6	バックアップスペースの確保		3.0	0.20	-	-	
<b>Q3 室外環境(敷地内)</b>			-	0.37	-	-	<b>1.8</b>
<b>1 生物環境の保全と創出</b>			<b>1.0</b>	0.30	-	-	<b>1.0</b>
<b>2 まちなみ・景観への配慮</b>			<b>2.0</b>	0.40	-	-	<b>2.0</b>
<b>3 地域性・アメニティへの配慮</b>			<b>2.5</b>	0.30	-	-	<b>2.5</b>
3.1	地域性への配慮、快適性の向上		2.0	0.50	-	-	
3.2	敷地内温熱環境の向上		3.0	0.50	-	-	
<b>LR 建築物の環境負荷低減性</b>			-	-	-	-	<b>3.6</b>
<b>LR1 エネルギー</b>			-	0.40	-	-	<b>3.9</b>
1	建物外皮の熱負荷抑制	BPI <sub>m</sub> =0.62	5.0	0.20	-	-	5.0
2	自然エネルギー利用	トップライト	4.0	0.10	-	-	4.0
3	設備システムの高効率化	[BEI][BEI <sub>m</sub> ] = 0.71	3.9	0.50	-	-	3.9
4	効率的運用		3.0	0.20	-	-	3.0
	集合住宅以外の評価		3.0	1.00	-	-	
4.1	モニタリング	デマンド管理、照明(人感センサー)	4.0	0.50	-	-	
4.2	運用管理体制		2.0	0.50	-	-	
	集合住宅の評価		-	-	-	-	
4.1	モニタリング		-	-	-	-	
4.2	運用管理体制		-	-	-	-	
<b>LR2 資源・マテリアル</b>			-	0.30	-	-	<b>3.4</b>
<b>1 水資源保護</b>			<b>3.4</b>	0.20	-	-	<b>3.4</b>
1.1	節水	節水コマ+省水型機器採用	4.0	0.40	-	-	
1.2	雨水利用・雑排水等の利用		3.0	0.60	-	-	
1	雨水利用システム導入の有無		3.0	0.70	-	-	
2	雑排水等利用システム導入の有無		3.0	0.30	-	-	
<b>2 非再生性資源の使用量削減</b>			<b>3.3</b>	0.60	-	-	<b>3.3</b>
2.1	材料使用量の削減		2.0	0.11	-	-	
2.2	既存建築躯体等の継続使用		3.0	0.22	-	-	
2.3	躯体材料におけるリサイクル材の使用	-	3.0	0.22	-	-	
2.4	躯体材料以外におけるリサイクル材の使用	再生クラッシュラン	3.0	0.22	-	-	
2.5	持続可能な森林から産出された木材		-	-	-	-	
2.6	部材の再利用可能性向上への取組み	LGS下地、OA707	5.0	0.22	-	-	
<b>3 汚染物質含有材料の使用回避</b>			<b>3.7</b>	0.20	-	-	<b>3.7</b>
3.1	有害物質を含まない材料の使用		3.0	0.30	-	-	
3.2	フロン・ハロンの回避		4.0	0.70	-	-	
1	消火剤		-	-	-	-	
2	発泡剤(断熱材等)	グラスウール	5.0	0.50	-	-	
3	冷媒		3.0	0.50	-	-	
<b>LR3 敷地外環境</b>			-	0.30	-	-	<b>3.5</b>
<b>1 地球温暖化への配慮</b>			<b>3.8</b>	0.33	-	-	<b>3.8</b>
<b>2 地域環境への配慮</b>			<b>3.5</b>	0.33	-	-	<b>3.5</b>
2.1	大気汚染防止	燃焼機器を使用していない	5.0	0.25	-	-	
2.2	温熱環境悪化の改善		3.0	0.50	-	-	
2.3	地域インフラへの負荷抑制		3.2	0.25	-	-	
1	雨水排水負荷低減		3.0	0.25	-	-	
2	汚水処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
3	交通負荷抑制	駐輪・駐車スペース確保、導入路の配慮	4.0	0.25	-	-	
4	廃棄物処理負荷抑制		3.0	0.25	-	-	
<b>3 周辺環境への配慮</b>			<b>3.2</b>	0.33	-	-	<b>3.2</b>
3.1	騒音・振動・悪臭の防止		3.0	0.40	-	-	
1	騒音		3.0	1.00	-	-	
2	振動		-	-	-	-	
3	悪臭		-	-	-	-	
3.2	風害、砂塵、日照障害の抑制		3.0	0.40	-	-	
1	風害の抑制		3.0	0.70	-	-	
2	砂塵の抑制		1.0	-	-	-	
3	日照障害の抑制		3.0	0.30	-	-	
3.3	光害の抑制		4.4	0.20	-	-	
1	屋外照明及び屋内照明のうち外に漏れる光への対策	光害チェックリストの過半を満たす	5.0	0.70	-	-	
2	星光の建物外壁による反射光(グレア)への対策		3.0	0.30	-	-	